

ケッティーのFX講座

テクニカル分析

～インディケーター解説編～

By ケッティー

注意事項

■著作権について

本冊子と表記は、著作権法で保護されている著作物です。

本冊子の著作権は、発行者にあります。

本冊子の使用に関しましては、以下の点にご注意ください。

■使用許諾契約書

本契約は、本冊子入手した個人・法人(以下、甲と称す)と発行者(以下、乙と称す)との間で合意した契約です。本冊子を甲が受け取り開封することにより、甲はこの契約に同意したことになります。

第1条 本契約の目的:

乙が著作権を有する本冊子に含まれる情報を、本契約に基づき甲が非独占的に使用する権利を承諾するものです。

第2条 禁止事項:

本冊子に含まれる情報は、著作権法によって保護されています。甲は本冊子から得た情報を、この書面による事前許可を得ずして出版・講演活動および電子メディアによる配信等により一般公開することを禁じます。特に当ファイルを第三者に渡すことは厳しく禁じます。甲は、自らの事業、所属する会社および関連組織においてのみ本冊子に含まれる情報を使用できるものとします。

第3条 損害賠償:

甲が本契約の第2条に違反し、乙に損害が生じた場合、甲は乙に対し、違約金が発生する場合がございますのでご注意ください。

第4条 契約の解除:

甲が本契約に違反したと乙が判断した場合には、乙は使用許諾契約書を解除することができるものとします。

第5条 責任の範囲:

本冊子の情報の使用の一切の責任は甲にあり、この情報を使って損害が生じたとしても一切の責任を負いません。

チャートの種類はどんなのがあるの？

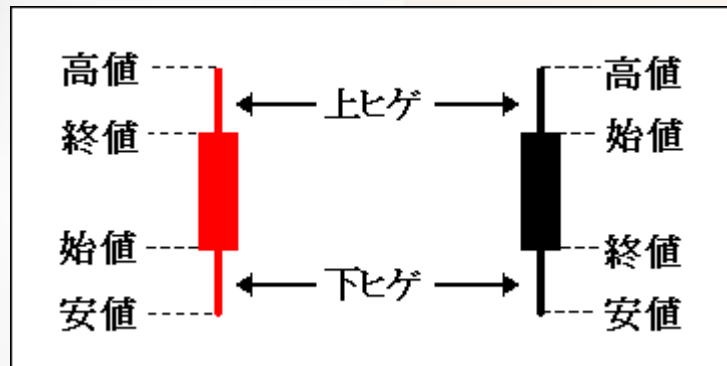
トレードをする時に使用するチャート。

チャートには、

- ・バーチャート
- ・ラインチャート
- ・ローソク足チャート
- ・平均足チャート

がありますが、現在日本人トレーダーの多くはローソク足チャートが一般的となっています。

[ローソク足についての説明]



※ http://www.asumiru.com/analyze/cv_c.html
より引用。

ローソク足の形状によって色んな意味を読み取ることができます。
ぜひ上記のサイトをチェックしてください！

赤のローソク足は陽線
黒のローソク足は陰線

テクニカル指標（インディケーター）を使う理由って？

テクニカル指標(インディケーター)を表示させることにより、混沌としたチャートを秩序化し、現在の相場状況を把握し、シナリオを立てられるようにするため!!



- ①トレンド相場とレンジ相場を判断できる。
- ②陰線、陽線が混じり、トレンドでもレンジでもない相場を判断できる。
- ③トレンド発生、トレンドの終わりを判断できる

以上の判断ができるように、インディケーターを選びます。
せっかく表示させたインディケーターでもこのような判断ができないのであれば、表示させている意味はないと思いませんか？

沢山のインディケーターを表示させて、判断に迷うようであれば、削ぎ落とす作業を試みるのも一つだと思います。

テクニカル指標の選び方

そもそも…

マーケットを動かしているのは誰でしょう？

国？

大統領？

神？



マーケットに参加している人

=市場参加者

ということは…

できるだけ多くの市場参加者が表示させているインディケーターを使うことが大多数の中に入ることができ、マーケットの流れと一緒に乗ることができるということ。

だから…

- ・ 市場参加者の多くの人が使っているインディケーターを選ぶ事
- ・ そのインディケーターを使用して相場を判断できる事
- ・ 判断に迷うようなインディケーターは表示させない事

MA（移動平均線について）

代表的なMAはこの2つ

- ・ SMA（単純移動平均線）
- ・ EMA（指数移動平均線）

違いは算出する計算式が違います。

【計算の算出上の過去の価格レートの使い方】

- ・ SMAは過去の○個のレートのみ使う。それ以前のレートは使わない。
- ・ EMAは過去のレート全てを何らかの形で使う
(EMA[n]の計算時にEMA[n-1]の値を再帰的に使う)。

【現在の価格レートを重要視するかどうかの違い】

- ・ SMAは現在のレートと過去のレートを平等に扱い表示する。
- ・ EMAは現在のレートを過去のレートより重要視して表示する。

これらの違いから、EMAは過去の全てのレートを考慮しているため、EMAは現在の（または最新の）レートに敏感である。

今回の講座ではSMAを使用しています。またケッティーチャートはSMA14とSMA20（ボリンジャーバンドミドルライン）を表示しています。

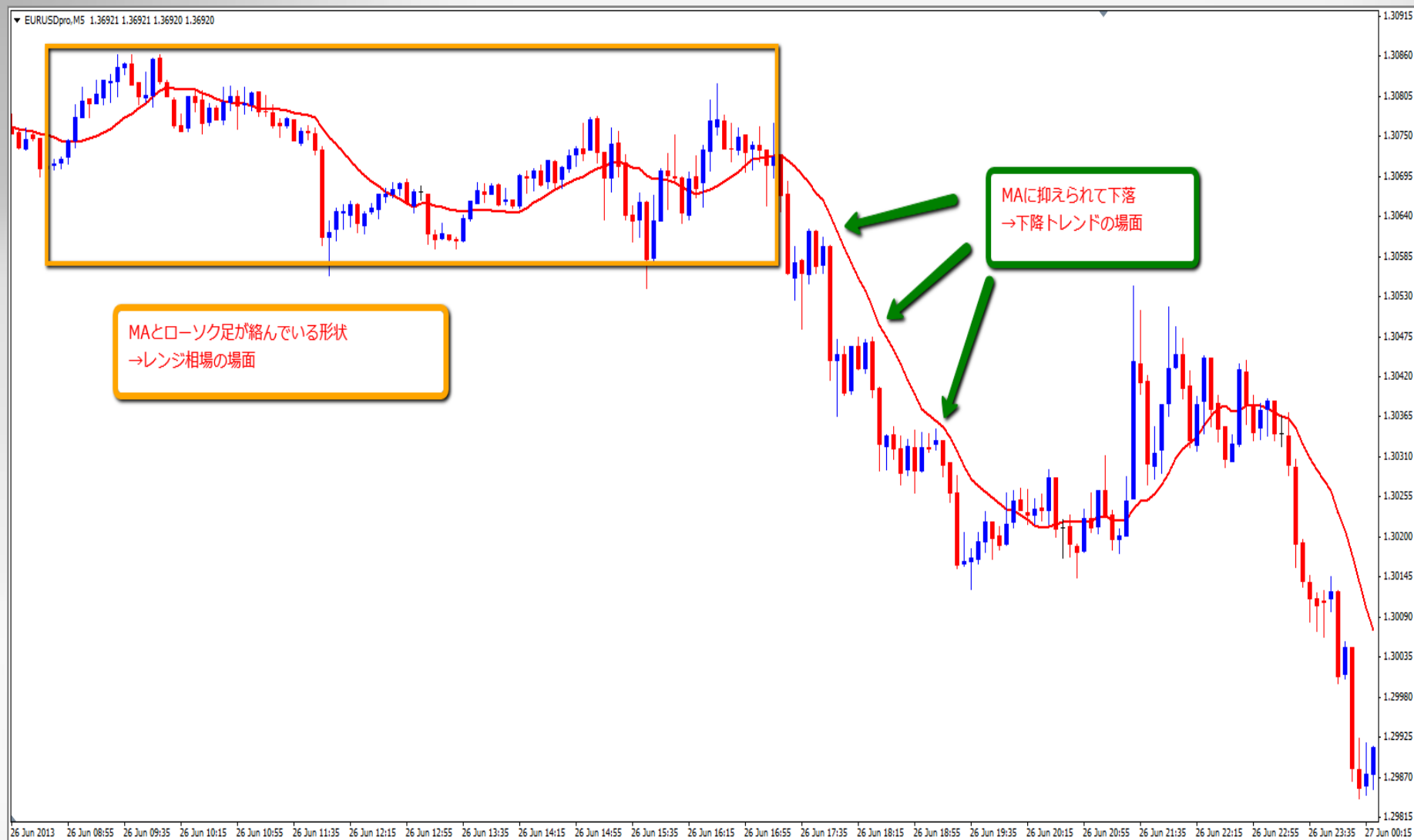
MAで相場状況を判断してみよう①



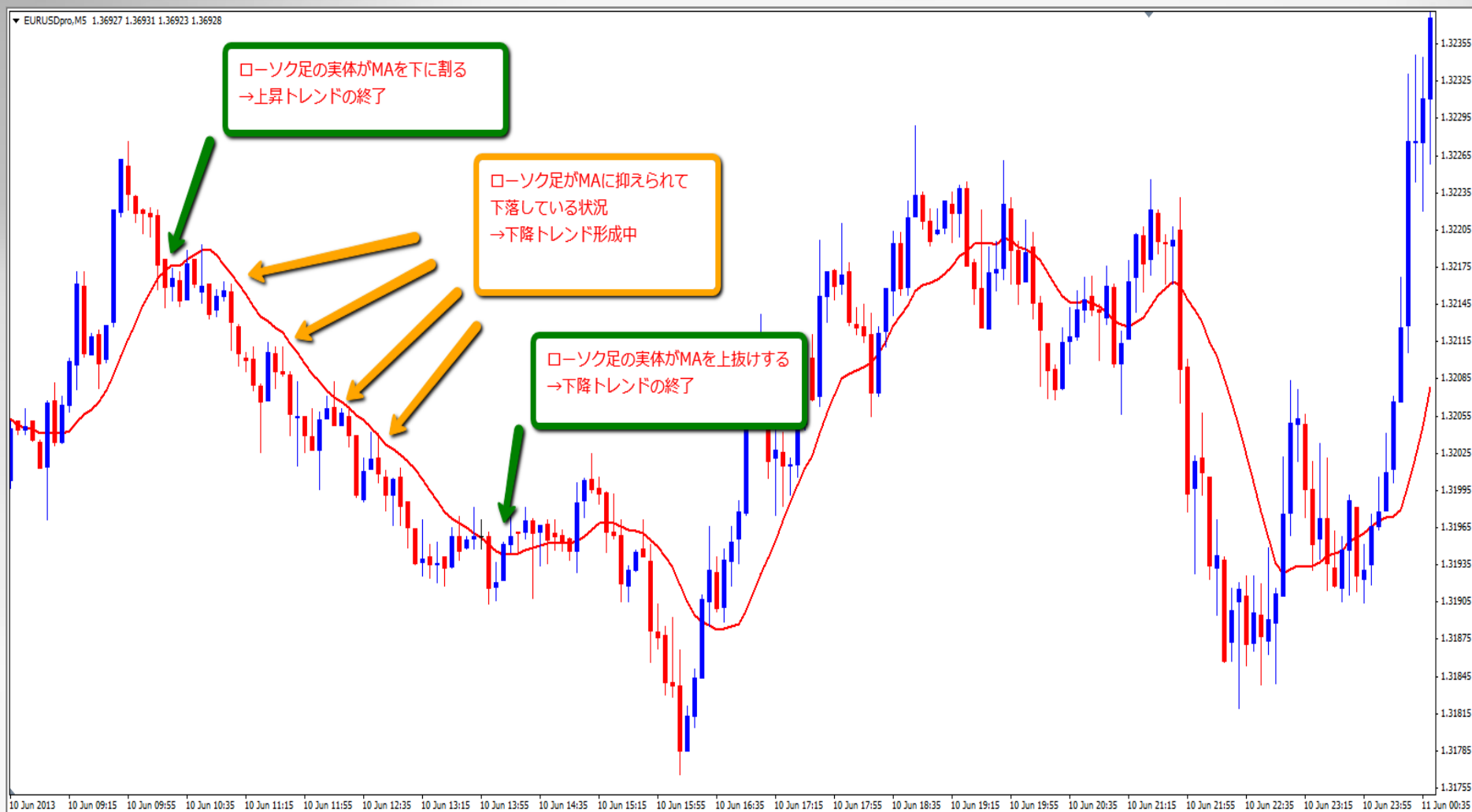
MAで相場状況を判断してみよう②



MAで相場状況を判断してみよう③



MAで相場状況を判断してみよう④



ボリンジャーバンド（B B）について

ボリンジャーバンドは移動平均線とその標準偏差（ $\pm 1\sigma$ 、 $\pm 2\sigma$ 、 $\pm 3\sigma$ …）をチャートに重ねて描き、各ラインにかかる値の分布状況から、値が反転するタイミングを測るトレンド系テクニカル指標です。

上下の標準偏差の線は、その内側に値が収まる確率が高いことを示すので、値が線を越えることを、内向きに反転するサインとするとされています。

$\pm 1\sigma$ は68.27% $\pm 2\sigma$ は95.45% $\pm 3\sigma$ は99.73%

の確率で内側に値が収まるので、例えば $\pm 2\sigma$ からはみ出した場合は5%の確率の現象が起きていることになります。

B Bの基本的な使い方は逆張り手法で用いられますが、ケッティー流では決済タイミングで使います。

つまり、バンドがはみ出た所、もしくは少し内側に入った所が利確ポイントとなります。

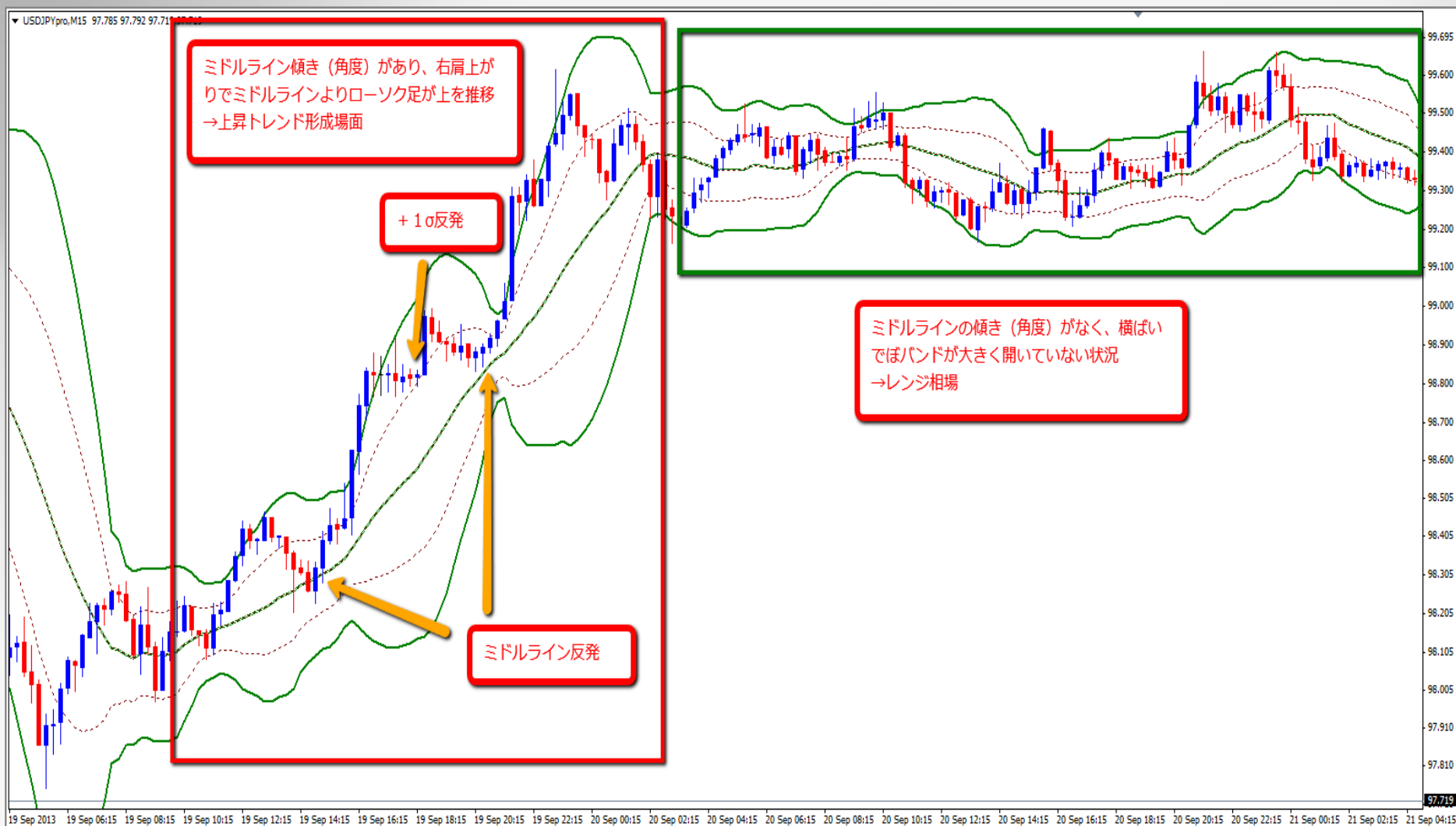
またB Bの状況から多くの相場状況を認識する情報をキャッチします。

ケッティーチャートはミドルラインの数値は20、そして $\pm 1\sigma$ 、 $\pm 2\sigma$ を表示しています。

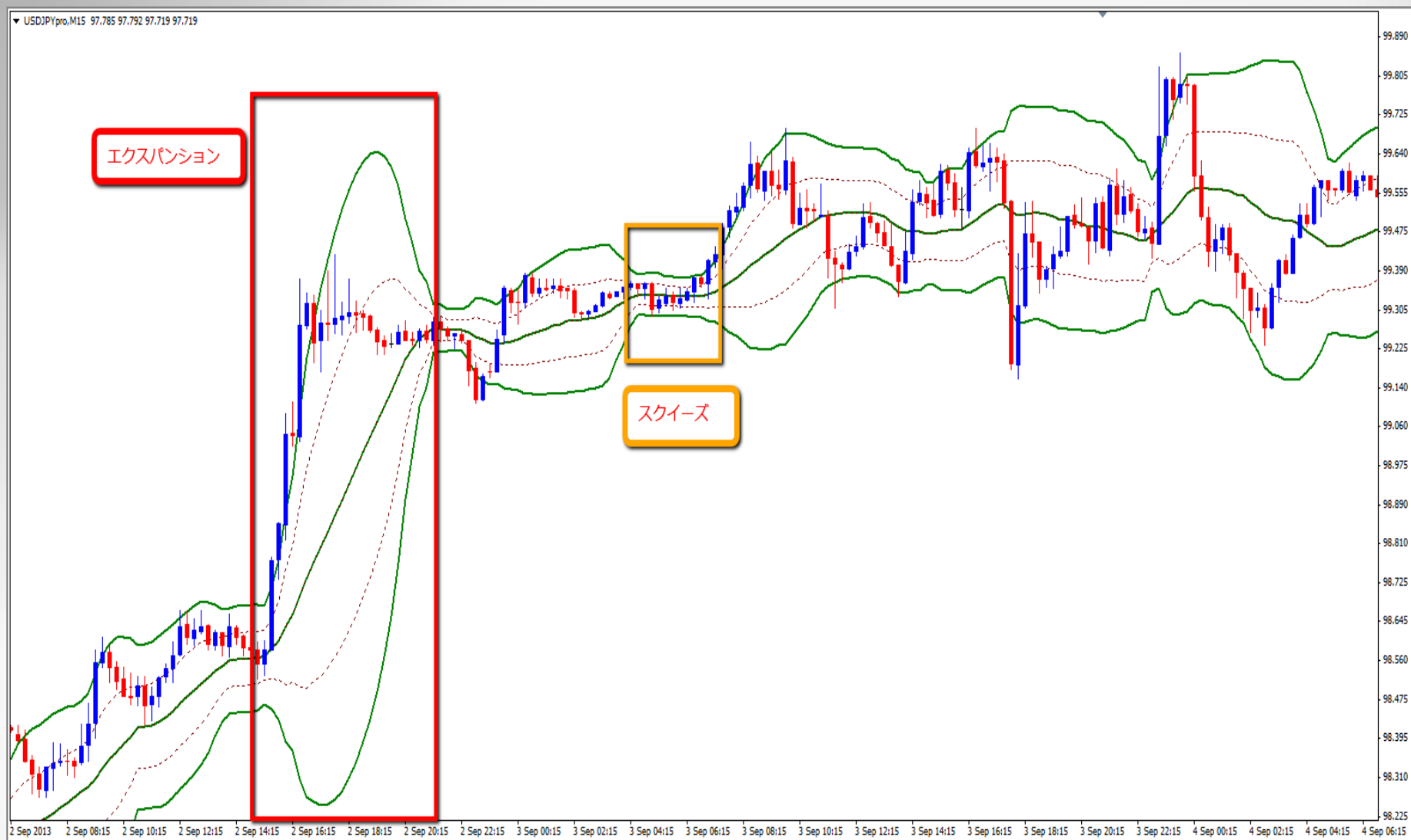
ボリンジャーバンドで相場状況を判断してみよう①



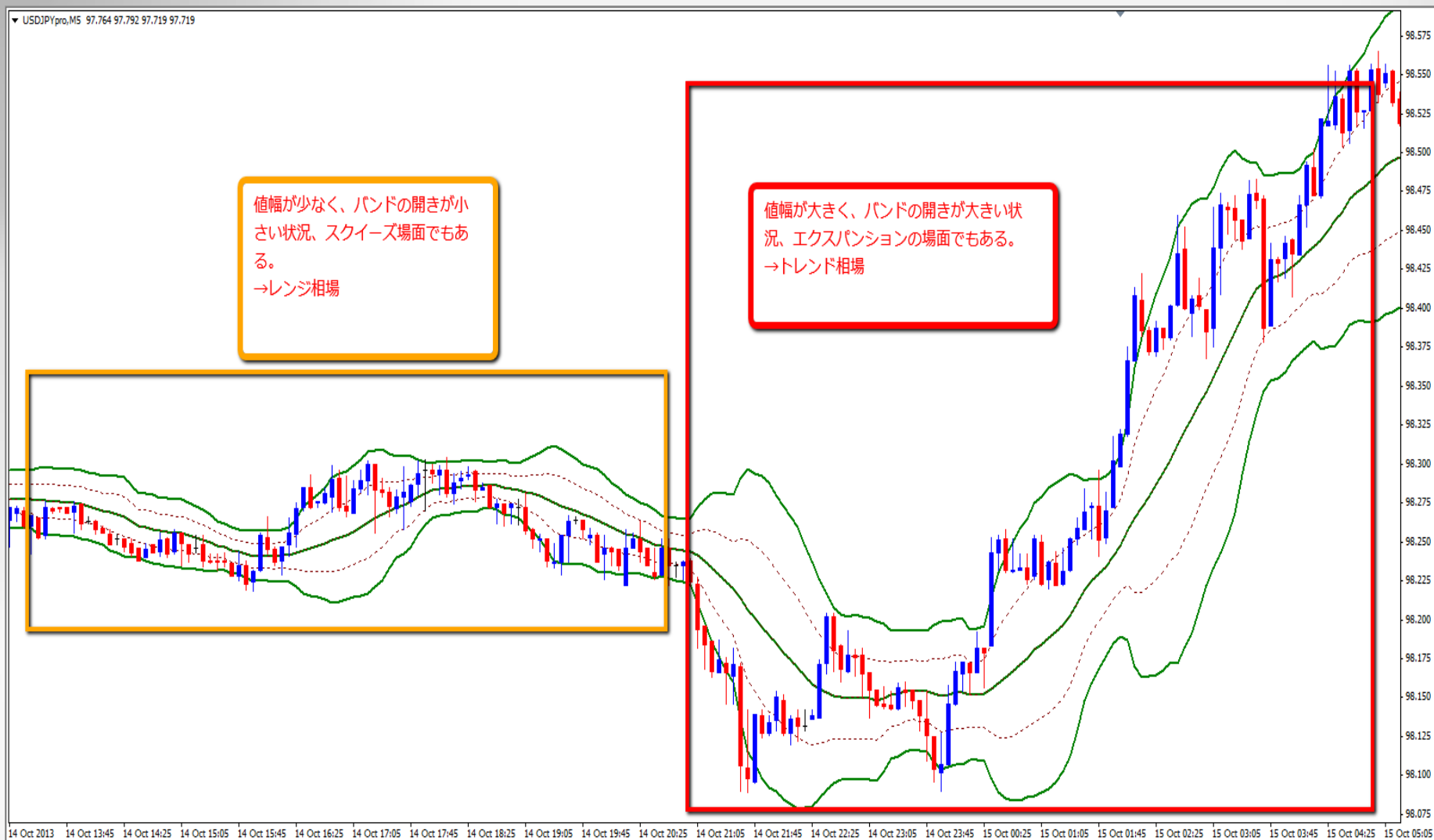
ボリンジャーバンドで相場状況を判断してみよう②



ボリンジャーバンドで相場状況を判断してみよう③



ボリンジャーバンドで相場状況を判断してみよう④



一目均衡表について

細田悟一（ペンネーム一目山人）によって開発された分析法

転換線＝（過去9日間における最高値＋同最安値）÷2

基準線＝（過去26日間における最高値＋同最安値）÷2

先行スパン1＝ {（転換値＋基準値）÷2} を（当日を含めた26日先すなわち）25日先にプロットしたもの

先行スパン2＝ {（過去52日間における最高値＋同最安値）÷2} を（当日を含めた26日先すなわち）25日先にプロットしたもの

遅行スパン＝（本日の終値）を（当日を含めた26日前すなわち）25日前にプロットしたもの

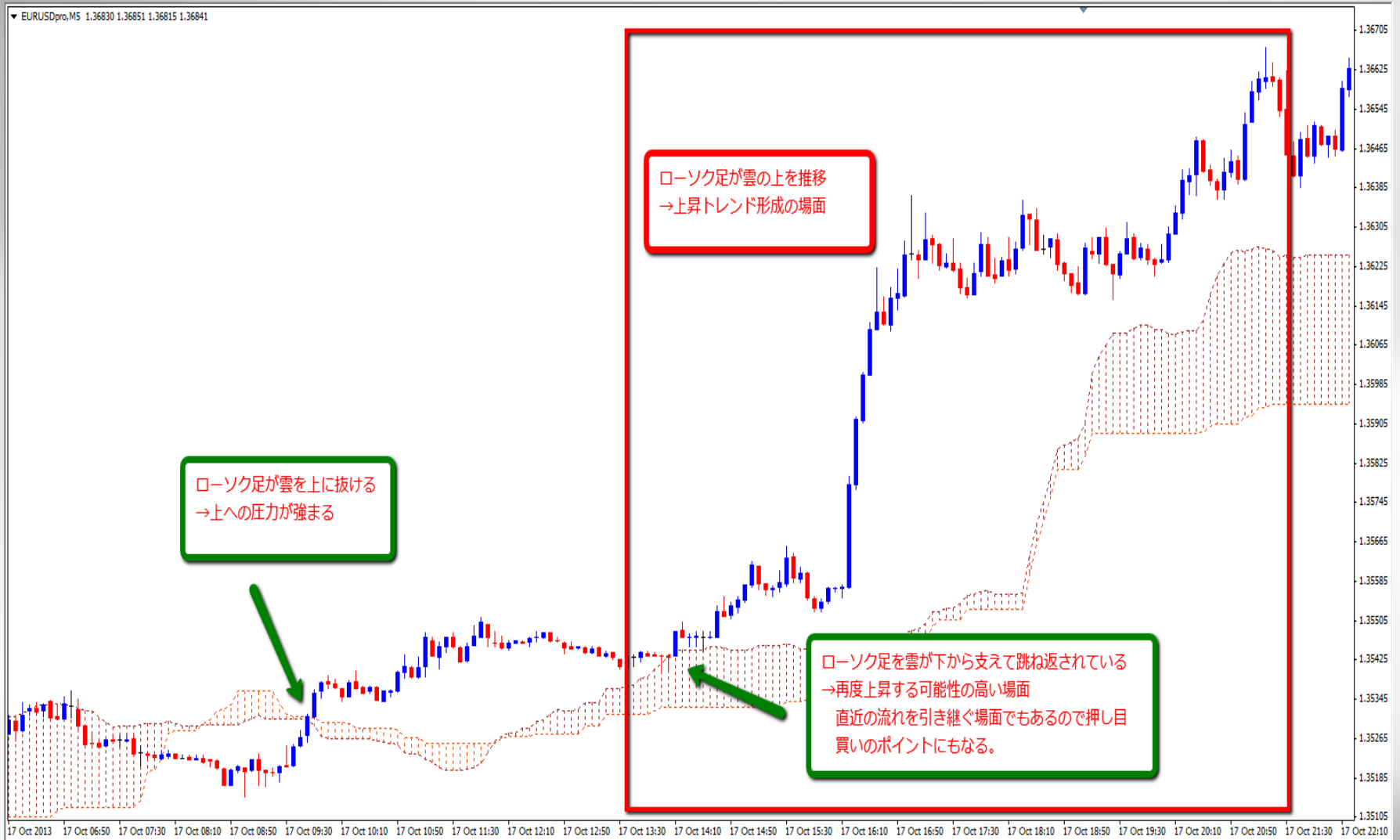
2本の先行スパンに囲まれた部分は雲と呼ばれる。

一目均衡表は奥が深すぎて全てを理解するにはかなりの時間がかかります。

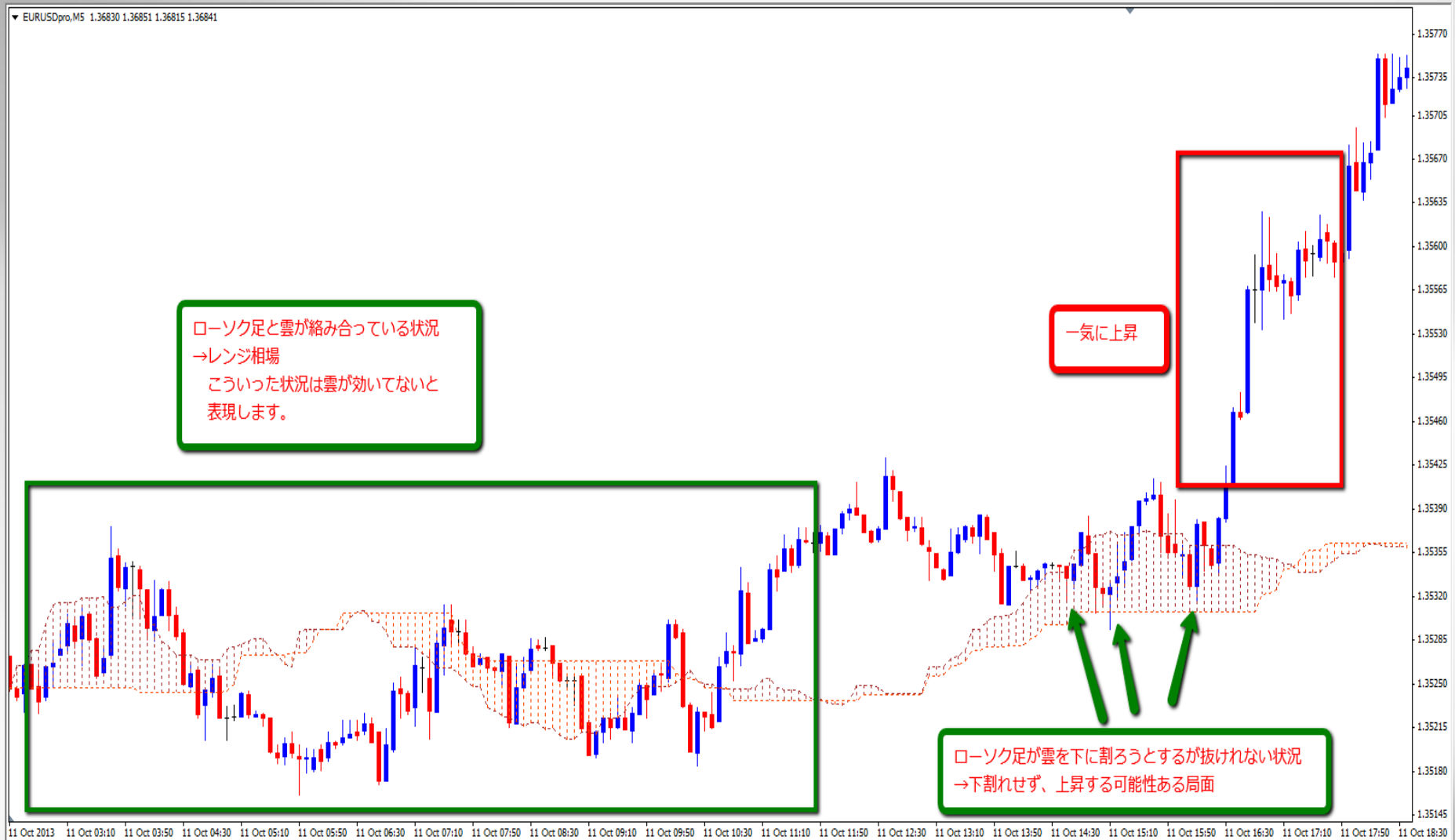
ケッティ一流では雲を抵抗帯や支持帯としてみる事で、相場状況を認識しやすく、そしてレンジ帯がいつまで続くか、反発した時のエントリータイミングなどに使用していきます。

ケッティーチャートは先行スパン1と2の雲のみを表示しています。

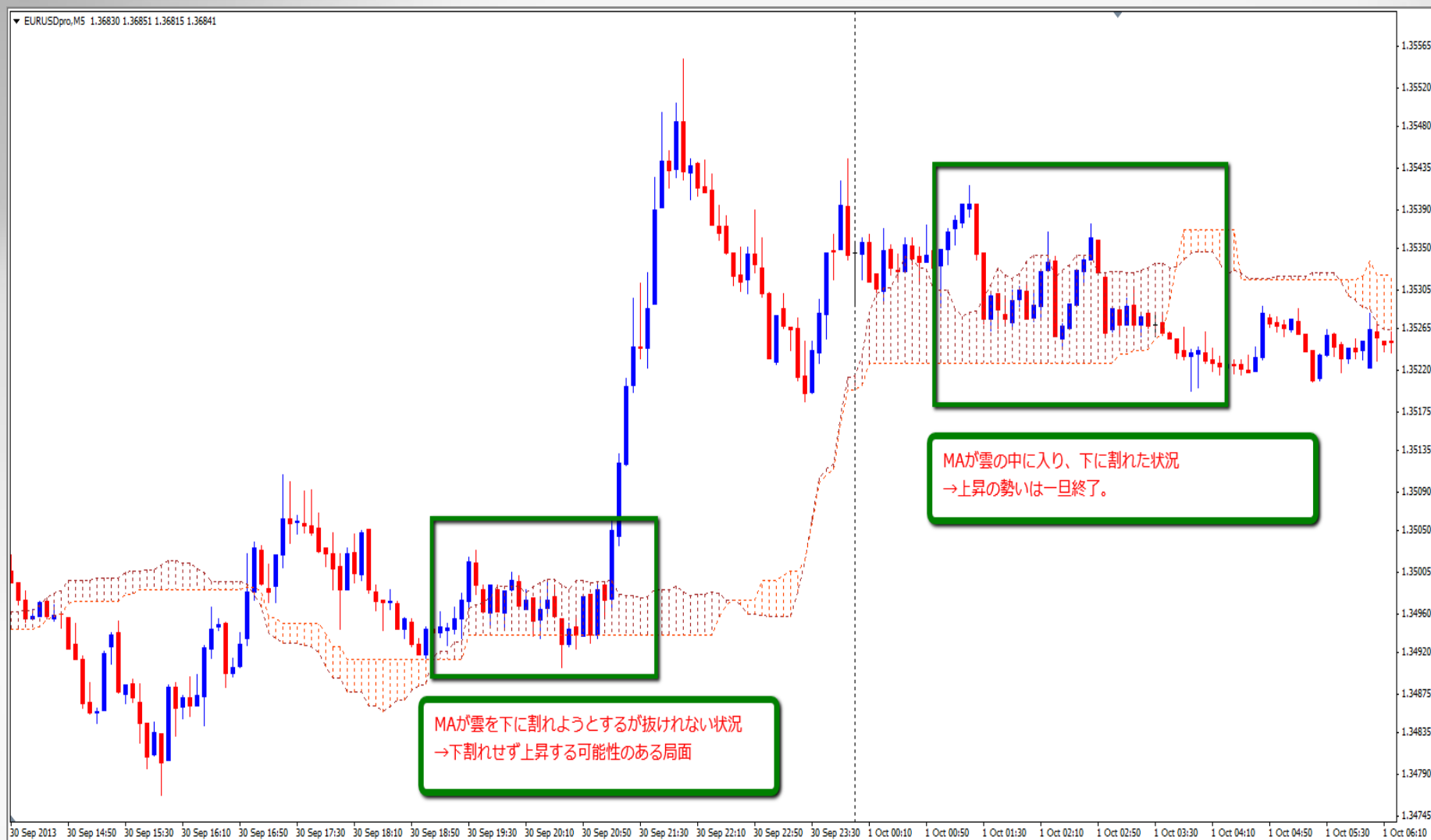
雲で相場状況を判断してみよう①



雲で相場状況を判断してみよう②



雲で相場状況を判断してみよう③



雲で相場状況を判断してみよう④

